磐城新聞 夕刊
一月二十六日發行
（日曜祭日翌日休刊）東京振替一〇・六五八五番

天氣豫報 小名濱測候所觀測
今晩北西の風後晴曇
明日北西の風晴

早春悼花

高瀬勝男

早天續いた日頃、何か必湧いてくる、いま已は一詩のよりどころなく腹立たしさが多かつた。

來るもの、去るもの、浮世のまゝなれど、今日空しく燥心を抱くとどのたまらない苦しみ氷りつく感情だそして酒だ。酒のんで、ぶつぶついつてみる。なき醉の已はなきたくなる。

しみじみと昔の面影に、あの頃の凡てがたのしかつた數々。いろいろな玩具が懷しい。繪もかけた、詩もも豊かだつた勿論、僞でない自分の誇りもあつた。年とともに、悧巧になつて、年毎に世馴る故か感激がすらぎ、玩具と空想を愛した。自分は社會人になつてしまつた、毎々、嘲ざれた已、又甘んじて大勢の徒に加はる人が、病になつてしまつた。戀も藝術も、世間並の事るすこし純粹になつて昔の如く還りたい。

街の名物人、ランブヤ乞食が死んだ、隨分と親しんだ彼一人。英雄を迎へるより、僕才を過するより一層印象的な街の姿、再び彼を街上に迎へることが出來ないのだ、失へるわびしさが

を手向けて彼の死を悼む。

『みちみち、爽やかな五色の雲がたなびいて居た、彼の獨り居、彼の姿は平和な輝きに充ちてゐた默々と、そして山の如く常に彼は靜かな湖面に臨む樣だつた。

風の吹く日
雨の降る日
私逹の怒りが怒ろしく狂つた、怕しみに麓らうても

彼は、天眞微笑ゝ般賑なる巷間になげるのだ、飛行機が翔んだ、陽溜にかがんで騒がない、

虫が偷ってゐた、彼は生命の幸福を樂しんで、みちろかない。窓々に温室育ちの西洋花が飾られる節、そして彼は死んでしまつた。いまだ野邊は寂寥、霜夜にとぎすます、月のみ白光の華とならう』

たまたま、一句おくらる
『醜草の骨にも春陽麗なれ』
獅子庵十四世宗家 光聖

加へて本察悼花となす。

1月27日
△源實朝弑さる（承久元）△日章旗が國旗と制定さる（明治三）△獨墺新通商協定調印完る（昭和一二）

ひとつの句 ○

祇園夜話女正月更けにけり　徂春

×××

初冬海村吟

伊良子清白

○草枯れし磯の陽向をわがゆきてあしもとにたつ鳥に驚く
○ひまもなく尾を打ち叩く鶺鴒の二羽をりて歩む島の埒土
○磯ちかき畑の麗ら陽羽根白き鶺鴒の二羽飛びたちにけり
○畧は掘りてうね新しく耕せる島のうへにうづくまる女
○子を抱きて畑の土手に休らへる一人の女われを見にけり

閑語句漫筆集稿 (39)

天麩羅考

大井川幸隆

さて、てんぷらが吾が國固有のもので有かどうかといふことに就いての議論を試みるのも面白いと思ふ。てんぷらの最初につくられたのは大阪であるさうだが、當時はてんぷらとは云はず『つけあげ』と云はれてゐたといふ『つけあげ』は饂飩粉を附けて油で揚げるから『附け揚げ』であること、……この料理が江戸に移入してからでは『胡麻揚』と呼び、擔ぎ屋台の辻賣が行はれたことは諸種の民俗、世相文獻に表はれてゐる。

てんぷらの語原については種々の說がある。てんぷら調理は支那から傳來したもので『天麩羅』なり『麩』とは麥の粉を云ひ『羅』とは、うすもの、うすき衣の謂ひなり、てんぷらは饂飩粉を薄き衣として材料の中身に附着せしめてこれを油揚げにするから斯くは云ふと主張した古人もある。或ひは、てんぷらのてんは天竺の天で、ぷらは風韻又は風來の意、即ち天竺風來約まりたるもの、之を以てんぷらとは云ふ、と說く者もある。

講談

恩讐無道 (12)

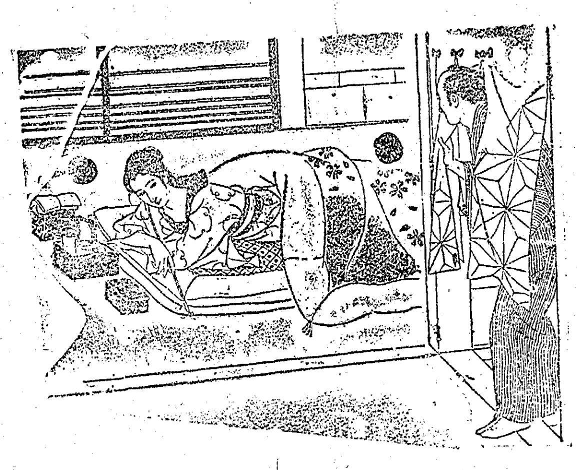
久我荘多郎
香川三十代畫

『天の巻』

彰義隊潰滅（十二）

黒門口に響く砲聲が、雨に煙つてすさまじく聞え出した。

五月十五日の朝である。官軍の總攻撃は、十三日だといはれてゐたが、それがのびて、この朝になつたのだ。



朝まだきから、又しても風まじりの雨が強く降つてゐた。その風雨のなかに、間斷なく殷々たる砲聲が起つて、戸障子をびりびりと鳴ぜる。

『到頭、やり出したね』

寢床のなかゝら、むつくり白い顔を擡げた女は、ひとり不敵に呟くのである。整つた目鼻立、朱唇、すべての道具の大きい大まかなはつきりした顔に、つめたい微笑をたゝえる女なのだ。危險の迫つてゐる現在……考へないのだらう？

……際、雨……

れになつて逃げ出す人々の恐怖に滿ちた聲が、すぐ塀の外を過ぎてゐるのだ。それが、混亂の響きと一緒に聞ゆるのに、この女は、悠々としてゐる。こゝから、上野の山は近い。橋一つ越せば、湯島だ。そのあたりには、長州兵、肥前兵筑後兵、佐土原兵が充滿して、上野を砲撃してゐるのである。

女は、戸障子を搖す砲聲や、その上をかいくゞるやうにして聞こえる小銃の音を、まるで、子守唄か何かのやうに香氣に聞きながら

『到頭、やり出したね』

さう呟いて、白くしなやかな腕を伸ばして、枕もとの煙草盆を引寄せた、火壺をかき立てゝすぱりと一ぷく、うまさうに白い煙りを吐き出すのである。

如何にもふてぶてしい動作であるが。しかし、この女がいつかの晩、官軍に追はれてゐた御門專藏を、咄嗟に匿つたあの時の女であるとしたら、あれだけの度胸を見せた人なのだから、この大膽不敵さも、また當然のことゝ頷けよう。

まつたく、あの晩の女なのである。

だが、專藏が、

（妾かな）

と、しゆん間考へたものだつたが、どうも妾風情でなささうだ。

これは、女賊なのだ。江戸の同業仲間では、ちつとは名を知られてゐるといふ月の輪のお樂——さう說明すれば、傳法な樣子と、美しい目の冷たさに、合點がゆくわけである。

お樂は、くちを細めて紫色の煙りの輪の、いくつかを吐き出してはその行方を見送りながら、耳は砲聲に奪はれてゐる。

この時、それまでひつそりして誰もゐないと思つた二階から、不意に人の足音がした。それも、ひどく狼狽した足音だ。どすどす梯子を踏んで、降りて來る氣配である。

折角考へごとをしてゐるのを邪魔されて、腹が立つといふやうにお樂は、舌打ちして眉をひそめると、

『三公。しづかにおし』

と、劍のある聲を、そこの梯子段の方へ向けて投げた。

ひよいと、暖簾のかげから、一つの顔が出た。男だ

『だつて、姐御』

といふのである。

『のんきにしてゐちや、駄目ですさあ。さあ、引上げませう。まごまごしてゐると鐵砲玉が飛んで來ますせ』

『ふゝん』

お樂は、鼻の先で笑つて

『姐御。お前さんは寢床を離れねえで……』

『逃げたけりや、お前ひとりで逃げるがいゝ。あたしや、こゝは動かないんだよ

◆內科、小兒科 院長 前田清美
◆外科（內臟外科、花柳病科）
◆產婦人科 副院長 幸恒足
◆耳鼻咽喉科 副院長 兒玉秀純
X光線科
（手術室入院室完備）
前田醫院
植田町本町 電話一二四番

メガネ專門の店
メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目 玉屋

海軍工廠御用達
SK 合資會社 平銅鐵機械商會
平市鍛冶町九（電話五二二番）電略（イ）又ハ（イ七）
振替東京一五七五二二番
倉庫（平市鍛冶町卅三番地 平市鍛冶町九番地）
鐵棒、平鐵、しやふと
鐵管、各種レール類
新品中古入荷仕り候間精々御注文相願度尙諸機械類各種取揃へ御來駕を御待申上候。
此度組織を會社に改め營業の充實を圖ると共に統制下にある吾等は國策に順應して御得意各位樣に精々御便宜を計るべく社員一同努力仕るべく候間倍舊の御引立を御願申上候。敬具

おでん、やき鳥
小鳥燒も初めました。
お酒のあとに おけさめし
おでん 茶めし 酒の家
味鄕
平市三田小路（三丁目裏）

加奈陀系銀黑狐
純血エゾ種狸
東北系多產種狸
フイッチ日本テン
大型種兎アンゴラ兎
雉子家禽各種
平產業養狸組合事務所
乾產業會社畜產部
國策アンゴラ兎採毛協會
福島縣磐城種畜場
內鄕村境（平市外）
出張所 平驛前 電六四八番
分讓所 東京市淀橋區下落合
藥品榮養劑飼料各種
◇北里研究所製ジステンパー豫防液
◇東西製藥所製綜合ビタミン劑
◇ヴイペリン末（動物わかもとの稱あり）
◇フイッシール榮養魚粉末
病理研究、診療、榮養劑の配劑
飼育指導の需に應
擔任技師 獸醫師

最新流行の
下駄と草履
ドコヨリモ安い
三井履物店
平南町 電話一八一番

磐城の御みやげ品
名物 靈峰羊かん（名產柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本十錢
製造發賣元 平屋賣店
小川鄕驛前

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します、
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部 電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します、

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2） 西村藥局 （電3）

東北の最高酒
登錄商標
金紋 大吟釀 花[illegible]
防腐劑ヲ含マズ
山形縣小松町
嵐山酒造株式會社釀造

登錄商標
銘酒 霞城 壽
發賣元 上總屋商店
平市三 電話七三一番
山形市七日町
虎屋酒造店釀造

ダイナモ
バッテリー
四氣筒六氣筒
マグネット
礦山用エンヂン
久野電機
平市紺屋町五三
電話 七二一番
振替東京一五、一〇四番

看護婦至急募集
（委細面談）
高柳醫院

冬と正月の仕度に 賣上げ約七割の增
客臘中の市郡下物品稅

平稅務署管內（市、郡下一圓）に於ける客臘中の支那事變特別稅中の物品稅は第一種甲（貴金屬、寶石類等に對し賣上げの一割五分を課稅）百九十一圓同上乙（メリヤス、ジャケツ、靴其他賣上げの一割ヲ課す）千三十六圓＝以上販賣課稅、同第二種二十圓＝製造課稅合計千八十五圓で十一月の六百四十八圓に比べ四百三十七圓の增で實に六割七分の奔躍を見せてゐるが、右は季節柄前記品目中の防寒用具の賣れ行きが良かつたのと新春の調度の關係が齎らした結果と觀られてゐる因に前記の稅金を通じて見た前月對比の賣り上げ金額の增加は僅かに五千圓に滿たぬ事になつてゐるが申告洩れも相當あるものとして實際は恐らく其れ以上であると看取さる

延期の禍因は？
問題を暗礁に擱座させた 片濱廻りの路線固執
平小鐵道點描

『船頭多くして船山に上る』は力の過剩に困る行き過ぎで、この場合は事前の調整宜しきに適する事によつて豫め之の憂ひを除き得る◇之と反對に片濱廻りと云ふ路線の固執運動が殃して再た候延期と云ふデツドロツクに乘り上げてしまつた？平小鐵道問題は折角保有してた力が分散した爲めで、これは事後に於ける力の擴充强化に俟たねばその解決が望まれない◇曳き船その他無理な方法で死の暗礁から引き離さうとするには船底の破損その他往々所期の目的と程遠い結果を招く事がある◇結局潮を待つての自力離礁が最も理想的であり且つ自然の方法である＝と云ふ見解の下に今回の問題も片濱廻りの一點張りで行くべきではない◇國防、產業、交通の三點に基調して路線を決定するのが當局の意向である事に相違は無く、この既定方針にピッタリ來て居るのか『路線はどうでも一日も早く實現して欲しい』と云ふ所謂白紙說で當局でも之は當然の事であり決して運動と見て居らないと云ふ事である◇片濱廻りでなければいけない。と云ふ建前から、當局をして徒らに實行を遲延せしむる一部の運動は、その熱に嘉すべき點ありとするも此際決して國を思ふの所以ではない

昨報、平小鐵に關する記事中記者の不敏に因る行文の晦澁から白紙派が恰も片濱廻りの運動と對立抗爭の立場に在る如く解さるる結果となつたのでその眞相であると信ずる點に就き些か蛇足を加へた次第、謹んで賢明なる讀者各位の御諒察を御願ひする

第五新築見合 現平商校舍修理

生徒收容難の對應策たる平第五小學校は時局柄新規事業の取止めにより新設備十萬圓の計上を見合せ現平商校舍を修理して一時間に合せることゝなつた

應召漁村授產奬勵

郡下の應召漁村遺家族に對し授產事業による生活の安定を目的とした授產設備講習會を來月十七日から十九日迄平市（場所未定）に開き縣小林基氏により兎、豚肉加工の講演、實習がある

燃ゆる釀造報國
石城生產酒の向上に 春早々の諸施設

石城の生產酒が過ぐる全國の品評會に於て特選及び優等に若干點の入賞を出し堂々先進地の壘を摩しつゝある旨旣報の如くであるが、組合では更に一段の飛躍を期すべくその前提として昨二十五日平稅務署樓上に酒母麴鑑評會を催し審査員本間喜榮（高久）御代德治（磐崎）山崎元三郎（平）外社氏柳川七五郎（白馬の雪）鈴木儀作（鶴仙）諸氏により出品、麴の部酛麴一〇、掛麴二六、酒母の部速釀三七、山廢三一、元添二に就て評細檢討品評の上大に將來の改善に資した外、明二十七日から四日間に亘り竹內縣技師の巡回指導を受くる等、當局の熱心が指導と相俟つて釀造報國の意氣に張り切つてゐる

義勇軍壯行會

滿洲開拓青少年義勇軍は旣に前後五回に亘り八百名を送出更に此程採用した第五回本隊員八十八名の前途を祝し縣では今二十六日午後二時から湯本町溫泉神社で祈願祭、同三時から小學校で壯行會を開いた

。。。好間の火事。。。　好間村北好間字行人澤小野林太郎（三七）方から二十五日午後三時頃發火、同家を全燒し更に隣家の大內彥助方を燒いて鎭火した、損害百餘圓、原因焚火の不始末らしい

。。。豚丹毒豫防注射。。。　平市の豚丹毒豫防注射を來月一日から四日間行ふ

。。。平市參事會。。。　二十八日午前十時から開き寄附採納、溜池設置、平商第五兩校交換敷地附議

。。。協和會旗樹立式。。。　平協和會では昨報新調した會旗樹立式を來月十一日の紀元節をトし春季總會を兼ねて平署會議室に擧行

無申告を嚴督
時局を辨へぬ横着商人に 當局寶刀の鞘を拂ふ

前記物品販賣稅の課稅標準をなす該當品の賣上げに就ては夫々法の定むる處により毎月遲滯なく稅務當局に申告する事になつてゐるが何せ現在の處で關係商人が三百名の多數に上つてゐるので、中には單に申告を億劫がつてその義務を懈るに止らず、稅金逋脫の目的から故意に申告せぬものなども絕無と云はれぬ實情に在り右の如きは刻下の非常時態勢を辨へざるも甚しい非國民的行動として從來の訓戒より一歩を進めて今後は假借する處無く處罰の方針である＝と平稅務署の菊地間稅課長は語つて居た

郡農會總會

石城郡農會の定期總會は縣農會總會も終了しその補助額等も決定したので大体來月上旬頃開くべく目下十四年度豫算の編成を急いでゐる

尙會長以下役員の改選はこの四月一日行はれる町村農會惣代人選擧後選ばれる新役員の決定次第行はるゝ筈である

時代の要求
ガソリン統制で 代用木炭需要旺ん
組合で製法普及

木炭自動車の出現其他ガソリン規正に伴ふ木炭の需要增加に濱三郡木炭同業組合でもこの機を逸せず永年の生產不足をも解決すべく管內指導員を督勵してこれが增產に馬力をかけてゐるが日尙ほ淺いにも拘らず各地に製造熱が燃ゑ上り本郡に於ても旣に川前、永戸兩村でドシ〳〵移出を試みてゐる等有望な將來性に鑑みその製法を一層改善普及すべく縣の井出技師を招聘して目下双葉郡津島村で講習會を開き二十九日終了次第更に相馬郡大野村で翌三十日から來月五日迄管內指導員に之を授け一般生產者に普及徹底せしむることゝなつた

尙郡下では旣に先進地の方法をとり入れ製造してゐるのでこんどはあらためて講習會は開かないが逐次その製法を改良して國策に沿ふ需給の圓滑を期すべく指導員間で寄々今後の研究向上策について頭をしぼつてゐると

小さき職業戰士の斡旋に
各校で『選職相談』開設
卒業近く忙しい平紹介所

平職業紹介所では卒業の春が近づいたので目下就職兒の斡旋準備に最後の馬力をかけて居り旣報の如く管內各小學校毎に『選職相談』を開設兒童、父兄、學校、紹介所一体となつてその希望に基き兒童の個性に適した職業を選擇してゐるがその父兄達は槪して吾子の就職問題に就いて關心がうすく、かくては兒童の將來を誤らせるやうなことにもなるので同所ではこの機會を利用して兒童の就職戰線への第一歩が如何に重要性を帶へるかを强調してゐる、選職相談は大体來月十五日を以て終る豫定であり之れによつて夫々確乎たる理想職業が決定されるわけなので其後は各地紹介所とも連絡して片つ端から就職先きを決定する段取りを整へてゐる

選職相談今後の日割左の如し

△一月二十六日小名濱、二十八日平第一、二十九日同第二、三十日同第三、三十一日同第四、二十七日豐間、二十六日江名

△二月二日渡邊、三日極田、四日錦、六日山田、七日勿來、八日同尋常、九日上遠野、十日入遠野、十三日川部、十四日飯野、十五日高久、十日磐崎、十三日同尋常　一日湯本、二日內郷、三日同第二、四日同第三、六日好間、七日同尋常、八日赤井第一、九日同第二、十五日永井、十日箕輪、十三日中三坂、十四日差鹽、一日神谷、二日草野、三日大浦、四日四倉、六日大野、七日小川八日川前、九日桶賣

片倉 絲姬募集

片倉製絲工場では例年の如く來月上旬に見習工の採用試驗を行ふので希望者は今月末迄平職業紹介所へ履歷書を提出されたいと

紹介所新陣容

此程市役所構內の新廳舍にお引つ越しをした紹介所は昨報で大新に三名の雇を採用して大体陣容が整つた、その事務分擔は最前線の少年職業係り、一般斡旋のほか國民登錄、庶務、會計に分れ、近く新主事補及び雇計九名に發令され次第登錄係りは階上へ移り更に階上の一部を會議室とし今後工場、會社の採用試驗等は大部分こゝで行はれるとのこと

。。。。。健康保險醫指定。。。。。　好間村北好間字室田諸權一郎氏は此程本縣健康保險醫として指定された

平局長着任

新任平局長木村久氏（石卷局長）は今二十六日午後着任

聲なき勇士ら凱旋

前線に活躍中護國の人柱となつた郡出身勇士の遺骨は二十九日頃思ひ出多き原隊に聲なき凱旋をするので來月十日午前十時から縣市合同の慰靈祭が行はれる ─

伍長佐藤寅雄（江名）同根本武（川前）上等兵古和口正（植田）少尉石川正司（四ツ倉）伍長坂本力房（草野）軍曹金成道安（好間）少尉山野邊勇（錦）伍長松崎梅吉（大浦）上等兵草野英（上小川）伍長松本晴男と（四ッ倉）上等兵戶田巳興治（大野）

。。。。工藝傳習生募集。。。。　市役所では平木工家具工業組合等に呼びかけ商工省工藝指導所傳習生募集の斡旋中であるが

資格は木工及金屬工品に經驗ある十七才以上四十才迄のもの、學校組合團体又は工場主の推薦により來月末迄申込まれたい

陣中を聽く
(323)

平つ子を喜ばせた 鄕土慰問團の熱演
杉平出身 西內牧造中尉（通信）

一月一日年賀の爲め○○部に出頭候處三縣慰問團の第一回公演中に御座候。小生も演藝場に出かけんと致し居り候處慰問團中小生に面會人ありとの事に早速飛び出し候處中島氏二婦人鄕土大平市を代表しての御多忙、酷寒の折にも拘らず遙る〳〵第一線に生命かけての慰問行の英姿に接せし際は感激の餘りお互言葉なく只力限りの握手のみ致せし次第に御座候。

仙縣と違ひ福島團のみは全くの素人のみ、鄕土を懷かしむる懷かしき俚謠、お國訛りの漫談等斷然仙縣を壓して熱演大好評、實に吾々も鼻を高く致し申し候

福島團の演技は抱腹絕倒或は一時的にもせよ故鄕を想起せしめ、縣銃後の人々の鴻大なる御赤心に感謝の淚無きはなく第一線將兵の最大の慰安として又發奮緊張せしむるの特效劑とも相成り申し候。

昨日午後六時營地に參上隣接部隊に宿泊せし爲め懇談致すべく平出身の三名を夜間御招待せしも婦人の外出は不能とて中島氏のみ參られ、夜半の一時迄歡談致し候。

小生らは徹夜でも語り盡せぬ銃後の皆樣への感謝よ吾々の過去並に將來の決意山積致し居るも連日寸暇無き疲勞の中島氏の使命を思ひ惜しくも他の機會を約し共に一つ床に抱き合つて就寢仕り候。

平出身の將兵と親しく談合せし中島氏らの皆々樣に對する報告こそ吾々の最も期待致し居るものに御座候

明日は奧地へ、この附近は殘敵も多く危險地帶には候へ共皆樣は一線將兵以上の元氣にて使命を果しつつ有之候へば何卒御放念下さる樣全市民へ御傳達下さらん事を懇願仕り候。一月五日

出港の夜 船內の悲劇
漁夫三名炭火で窒死

二十五日夜小名濱港內に碇泊中の小名濱町船引場芳賀運四郎氏所有船第四運德丸（アグリ船二十三トン）乘組漁夫青森縣大畑村生れ田中宇松（三二）後藤孫代（三五）西谷石太郎（四二）の三名は就寢中炭火で中毒、窒息絕命してゐるのを二十六日午後四時頃發見された

船長濟家良藏氏外三十四名は昨夜出港準備を整へて就寢したのが零時半、四時頃に亘つて船員が前記三名の寢室を叩いたが何の返事もないので開けて見るとこの悲劇が判つたもの

献金

磐城炭礦平發電所体育部では大會費用を節約金三十圓を皇軍慰問並に出征將士家族救護費金として加美山武夫氏から市役所へ寄託

平市慶弔錄

○婚姻　湯本町三函惣太郎氏二男齋藤雅氏（三〇）本籍市內新川町諸橋マキ（二三）

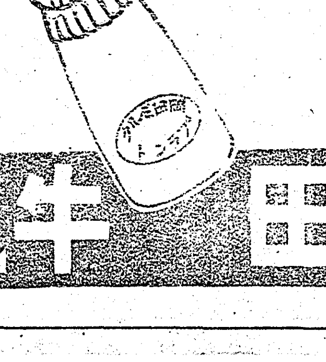
△出生　市內仲間町坂本一郎氏長女桂子ちやん

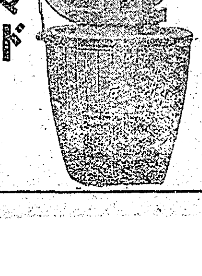
▲死亡　市內白銀町佐藤一郎氏（四二）

舊十二月八日　金曜　甲子　先負　閉　鬼宿　新一月二十七日

▲一白　一旦下りたる運氣も引立てを受け向上すべし▲二黑　意外の恩惠によくし得らるゝ吉日なり進みて吉し▲三碧　行く先きに迷ひのくもの掛りて晴れやらぬ日▲四綠　昨日の味方も今日はてきとなり易き凶日たり▲五黃　心をそろへ根氣よく働けば大吉日となるべし▲六白　樂々とのび行く日なり名弘め開店何れも吉▲七赤　內輪もめの生じ易く金談にも故障を生じ易し▲八白　一白再びあしたなり難し勇をこして奮闘すべし▲九紫　あせり氣のみ投じて落付きを欠く注意日たり

簡易ノ金融
磐城無盡
趣味ノ貯蓄
縣內各町出張所

低溫殺菌
岡田牛乳

斷然─賣行よし
信用と品質と共に備つて
平市鎌田町
電話五一

石綿ムシカマド
實用新案 第一八七四三〇號
意匠登錄 第六六一六七號
石山式
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が强く堅牢で火の元絕對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマドへ近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。


和洋銅物 金物問屋
平市五丁目
(久) 釜屋商店

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）
藤田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木嘉政
『入院のお需めに應ず』
（看護婦及び見習看護婦募集）
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院